

《質問項目》

- 質問1 しっかり授業に参加して、学習内容を理解しようと努力している。
- 質問2 授業で学習した内容は、だいたい理解できている。
- 質問3 先生は生徒に力をつけさせようと工夫してわかりやすい授業を行っている。
- 質問4 先生は学習評価についてわかりやすく示し、学力や学習の様子を適切に評価している。
- 質問5 授業を通して、学んだ内容を自分で考えて判断し、他者に言葉や文章などで伝える場面がある。

授業評価集計結果及び分析と改善策

(国語)科

	1年				2年				3年			
	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
質問1	86	31	9	2	96	38	7	1	105	47	3	2
質問2	68	51	8	4	55	67	12	2	62	78	12	5
質問3	88	40	2	2	61	57	12	11	92	57	5	2
質問4	85	31	6	1	56	55	15	9	74	65	13	5
質問5	77	42	9	3	82	44	7	3	78	60	14	5
質問1(%)	67%	24%	7%	2%	68%	27%	5%	1%	67%	30%	2%	1%
質問2(%)	52%	39%	6%	3%	40%	49%	9%	1%	39%	50%	8%	3%
質問3(%)	67%	30%	2%	2%	43%	40%	9%	8%	59%	37%	3%	1%
質問4(%)	69%	25%	5%	1%	41%	41%	11%	7%	47%	41%	8%	3%
質問5(%)	59%	32%	7%	2%	60%	32%	5%	2%	50%	38%	9%	3%

結果の分析

学年が上がるにつれて、学習内容を理解しようと努力する姿勢が見られる。全学年通して、約9割の生徒が授業内容を理解できている。また、「授業を通して、学んだ内容を自分で考えて判断し、他者に言葉や文章などで伝える場面がある」と感じている生徒の数はここ数年増えてきている。これは、グループワーク等の工夫や折に触れて「今行っている活動が『自分で考え他者に伝える』である」ということを教員が伝えてきた成果であると言える。

改善策の検討

現状を維持しつつ、より分かりやすい授業、より分かりやすい評価に努めていきたい。

授業評価集計結果及び分析と改善策

(数学)科

	1年				2年				3年			
	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
質問1	90	23	14	4	165	38	2	1	110	40	4	3
質問2	61	37	13	9	108	73	20	3	70	66	13	8
質問3	54	35	13	22	143	55	5	0	74	60	15	7
質問4	67	28	12	11	131	66	5	4	70	66	11	8
質問5	80	28	13	6	99	74	27	4	61	63	18	15
質問1(%)	69%	18%	11%	3%	80%	18%	1%	0%	70%	25%	3%	2%
質問2(%)	51%	31%	11%	8%	53%	36%	10%	1%	45%	42%	8%	5%
質問3(%)	44%	28%	10%	18%	70%	27%	2%	0%	47%	38%	10%	4%
質問4(%)	57%	24%	10%	9%	64%	32%	2%	2%	45%	43%	7%	5%
質問5(%)	63%	22%	10%	5%	49%	36%	13%	2%	39%	40%	11%	10%

結果の分析

全項目について、「そう思う」「ややそう思う」の割合がほぼ8割を超える結果になっている。T・Tや少人数授業を取り入れていることもあり、各学年2名以上の教員が生徒と授業でかわり、指導できている。より多くの教員の指導による様々な角度からのアプローチが生徒の学習意欲を高め、その結果、幅広く生徒の支持を得られたのではないかと分析できる。
ただ、質問3・質問5に関しては、「あまりそう思わない」「そう思わない」の割合が若干高くなっている。授業者側としてはわかりやすい授業を意識しているつもりでも、それが生徒へ伝わっていないか、授業の意図に対して、生徒の理解が不十分だったりすることがあったのではないかと推測できる。

改善策の検討

現状の良い部分を維持しながらも、わかりやすい授業の研究や自分の考えを伝える場面を意図的に増やすなどの対策を講じていく必要がある。教員数が他教科に比べて多いという利点を生かし、教員間での研修や情報交換をより活性化させることでわかる授業へつながっていくと思われる。また、授業でも、発表や発言だけが言語活動でなく、自分の考えを文章で表現し、他者に伝えることや自分自身との対話などでも、自分の考えを表現していることになるということを理解させるような声掛けを行っていく。

授業評価集計結果及び分析と改善策

(社会)科

	1年				2年				3年			
	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
質問1	110	16	6	2	95	36	6	1	105	40	8	4
質問2	92	24	13	4	59	36	38	2	59	65	26	7
質問3	119	12	1	1	92	32	12	4	86	46	14	11
質問4	107	17	2	0	86	41	10	1	68	61	13	15
質問5	100	19	5	3	59	48	17	10	67	63	17	10
質問1(%)	86%	13%	5%	2%	67%	25%	4%	1%	67%	25%	5%	3%
質問2(%)	70%	18%	10%	3%	43%	26%	28%	1%	38%	41%	17%	4%
質問3(%)	90%	9%	1%	1%	65%	23%	9%	3%	55%	29%	9%	7%
質問4(%)	87%	14%	2%	0%	64%	30%	7%	1%	43%	39%	8%	10%
質問5(%)	76%	15%	4%	2%	43%	35%	13%	7%	43%	40%	11%	6%

結果の分析

全項目について、「そう思う」「ややそう思う」の割合がほぼ7～8割を超える結果になっている。質問1に関しては、各学年とも9割を超える生徒が「そう思う」と回答しており、授業に前向きに取り組む努力しようとする姿勢がみられる。半面、質問2に関しては、2・3年生では「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒の割合が低くなっている。小学校での既習内容から外れ、新しい学習内容を理解することには課題がある。
また、一部の生徒の間には学習内容を難しいと感じている生徒も存在する。社会科が育てる力の一つに「見方や考え方」があり、資料の読み取りや読み取った資料を活用して思考していく課題も多く、社会科の基本的な知識や国語や数学の基礎基本が身につけていないと理解することが難しい内容が多いのではないかと考える。

改善策の検討

生徒が授業や学習に対して前向きに取り組もうとする姿勢を、教える側が上手に汲み取り、学習内容の理解につなげていく必要がある。生徒自身が自分がどこまで理解できているかを客観的に把握するために、記録をつけさせるなどの工夫をしていく。
評価に関しては、課題に対する評価基準を明確にし、誰が評価を行っても同じ評価になるような評価を心がけていく。
話し合っってプレゼンテーションする機会をしっかりと確保し、その場だけでなく、話し合ったことを学習内容の理解につなげていけるよう振り返りを行わせる。併せて、話し合い活動やプレゼンテーションに対する評価基準も明確なものとする。

授業評価集計結果及び分析と改善策

(理)科

	1年				2年				3年			
	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
質問1	86	33	7	2	90	40	7	0	109	44	1	2
質問2	43	50	18	6	44	63	20	7	65	71	14	6
質問3	57	43	22	3	35	47	28	27	86	61	5	3
質問4	73	45	6	2	50	58	16	9	74	68	8	5
質問5	47	49	17	4	64	49	9	9	71	63	13	6
質問1(%)	67%	26%	5%	2%	66%	29%	5%	0%	70%	28%	1%	1%
質問2(%)	37%	43%	15%	5%	33%	47%	15%	5%	42%	46%	9%	4%
質問3(%)	46%	34%	18%	2%	26%	34%	20%	20%	55%	39%	3%	2%
質問4(%)	58%	36%	5%	2%	38%	44%	12%	7%	48%	44%	5%	3%
質問5(%)	40%	42%	15%	3%	49%	37%	7%	7%	46%	41%	8%	4%

結果の分析

ほとんどの生徒が、内容理解に努めていることがうかがえ、生徒の学習への意識の高さが読み取れる。全学年を通して「あまりそう思わない」「そう思わない」の割合が高くなったのが、質問2の「内容理解」と質問5の「他者へ学んだことを伝える場面」となっている。
質問5については、実験観察を通して他者と関わる場面が多いため、他者と言葉のやり取りをする機会も多いはずだが、生徒の認識としてはそうではないことがうかがえる。

改善策の検討

内容理解については、今より一層、生徒の理解状況の把握に努め、生徒の達成状況に応じた指導を心がけることに加え、学習内容と日常生活との関連性を、しっかり考え身につけさせることが大切と考える。教師からの声かけ・発問など、生徒自らが気付けるような工夫をしていきたい。
「他者へ学習内容を伝える」ことについては、現状よりも言語活動の機会を増やすことも一つではあるが、レポートはもちろん、実験中の会話や結果の共有等も、学んだことを他者に言葉で伝える活動であるということをも十分に理解させることも必要である。そのような教師の声かけを増やし、生徒の認識を変化させていきたい。

授業評価集計結果及び分析と改善策

(音楽)科

	1年				2年				3年			
	そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
質問1	106	20	2	1	107	26	6	0	115	35	3	3
質問2	89	33	5	1	76	44	15	3	88	53	12	3
質問3	84	30	5	0	89	39	6	1	92	57	5	2
質問4	95	30	4	0	84	44	4	1	85	55	10	5
質問5	73	42	8	0	45	47	26	12	72	57	13	12
質問1(%)	82%	16%	2%	1%	77%	19%	4%	0%	74%	22%	2%	2%
質問2(%)	70%	26%	4%	1%	55%	32%	11%	2%	56%	34%	8%	2%
質問3(%)	71%	25%	4%	0%	66%	29%	4%	1%	59%	37%	3%	1%
質問4(%)	74%	23%	3%	0%	63%	33%	3%	1%	55%	35%	6%	3%
質問5(%)	59%	34%	7%	0%	35%	36%	20%	9%	47%	37%	8%	8%

結果の分析

質問1から質問4について、「そう思う」「ややそう思う」と回答している生徒が多く、意欲的に授業に参加していることが見受けられる。しかし質問5では、「あまりそう思わない」と回答している割合が多く、他者に言葉や文章で自分の考えを伝える場面が少ないと感じていることが分かった。音楽的な活動の充実をはかり、歌唱や演奏によって表現する時間を多く取るような授業展開を心掛けているが、その反面、言語活動の時間が少なくなっていることが要因だと考える。

改善策の検討

なるべく演奏の時間を確保しながら、他者に考えを伝える場面を増やしていくように改善していきたい。そのために、リコーダー演奏に関しては個人練習だけでなく、ペアやグループでの練習の時間を増やして、周りと話し合いながら技術を高めるような授業ができるよう工夫していく。鑑賞では、自分の意見をワークシートに書くだけでなく、周りと話し合ったり発表しあったりすることで、考えを深めるような授業をつくっていく見直ししていきたい。

授業評価集計結果及び分析と改善策

(保健体育)科

	1年				2年				3年			
	そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
質問1	219	33	2	1	169	46	5	0	232	46	3	8
質問2	169	54	11	3	138	59	15	5	167	102	13	7
質問3	179	51	10	7	127	67	11	11	169	103	5	12
質問4	181	46	11	3	119	81	9	2	167	106	7	11
質問5	117	72	34	11	79	68	48	24	125	91	43	30
質問1(%)	86%	13%	1%	0%	77%	21%	2%	0%	80%	16%	1%	3%
質問2(%)	71%	23%	5%	1%	64%	27%	7%	2%	58%	35%	4%	2%
質問3(%)	72%	21%	4%	3%	59%	31%	5%	5%	58%	36%	2%	4%
質問4(%)	75%	19%	5%	1%	56%	38%	4%	1%	57%	36%	2%	4%
質問5(%)	50%	31%	15%	5%	36%	31%	22%	11%	43%	31%	15%	10%

結果の分析

授業にしっかりと取り組み、努力している生徒が多い。
質問2～3において「そう思う」、「ややそう思う」の割合が全学年で8割を超えている。わかりやすい授業を目指して、視覚教材や指導方法を工夫したことが良かったのかもしれない。
質問5は、他の質問に比べると「そう思う」、「ややそう思う」の割合が少なくなっている。

改善策の検討

良いところは継続していく。
質問5については、授業中に言葉で伝えている場面を多く見かけるので、その時に教員側が声をかけたり、褒めたりすることで、生徒自身が意識し、次につながっていくと考える。

授業評価集計結果及び分析と改善策

(家庭)科

	1年				2年				3年			
	そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
質問1	90	22	7	4	91	30	10	2	107	39	6	4
質問2	56	59	5	1	62	49	15	7	75	62	14	5
質問3	80	34	6	0	60	51	11	8	75	66	8	7
質問4	66	41	3	1	66	49	9	6	71	60	17	6
質問5	53	41	20	3	51	45	24	11	59	54	23	20
質問1(%)	73%	18%	6%	3%	68%	23%	8%	2%	69%	25%	4%	3%
質問2(%)	46%	49%	4%	1%	47%	37%	11%	5%	48%	40%	9%	3%
質問3(%)	67%	28%	5%	0%	46%	39%	8%	6%	48%	42%	5%	4%
質問4(%)	59%	37%	3%	1%	51%	38%	7%	5%	46%	39%	11%	4%
質問5(%)	45%	35%	17%	3%	39%	34%	18%	8%	38%	35%	15%	13%

結果の分析

質問1より全学年ともに9割の生徒が「そう思う」、「ややそう思う」を選んでいることから、前向きに授業に取り組んでいることがわかる。その反面、少数であるが授業に集中して取り組めない生徒もいるという課題もある。質問5では「そう思う」「ややそう思う」が7割ほどしかおらず、自分で考える場面や、他者に伝えていく場面がさらに必要であり、更なる授業での工夫が必要だと考える。

改善策の検討

実習や実技の場面では、一人ひとりが学習に向き合えるような環境を整えることや、手順や掲示物の工夫に努めていきたい。また、授業内で話し合いの場を取り入れ、生徒自身から取り組めるような実践的な指導に努めていきたい。その場限りではない指導が必要である

授業評価集計結果及び分析と改善策

(美術)科

	1年				2年				3年			
	そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
質問1	86	34	6	6	96	31	9	2	114	35	4	2
質問2	50	55	16	5	69	46	14	5	82	60	8	5
質問3	77	44	6	1	73	40	12	6	81	57	12	4
質問4	61	40	14	4	61	54	15	7	76	49	19	11
質問5	48	32	27	18	28	28	27	50	53	52	28	20
質問1(%)	65%	26%	5%	5%	70%	22%	7%	1%	74%	23%	3%	1%
質問2(%)	40%	44%	13%	4%	51%	34%	10%	4%	53%	39%	5%	3%
質問3(%)	60%	34%	5%	1%	56%	31%	9%	5%	53%	37%	8%	3%
質問4(%)	51%	34%	12%	3%	45%	39%	11%	5%	49%	32%	12%	7%
質問5(%)	38%	26%	22%	14%	21%	21%	20%	38%	35%	34%	18%	13%

結果の分析

質問1に関して
この集計の全体的な印象としては学習者本人の向学意識は高いと判断できる。ある程度興味を持って授業に参加しながら教科固有の学習形態(素材と 用具を駆使した制作活動が主体となるが)を意欲や興味を持って取り組んでいると判断できる。一方で、あまりそう思わない・思わないを示す子どもがいることは、学習形態に乗り切れていない、または理解が届くような説明や 提案に工夫の余地が存在することと認め、公平・丁寧な指導を模索したい。

質問2に関して
特に1、2年生では、あまりそう思わないを示す生徒がふた桁存在するが、課題に対して何を求めているかの明確な評価規準を提示説明が不足した事が学習への肯定感を引き出せなかった一因と感じ、丁寧な説明・解説を更に加えながら活動を下支える。

改善策の検討

美術科に保証されている時間数を、さらに有効に使い学習活動の管理運営を充実させるために具体例を挙げる。成果物に対する評価・称揚によって自己肯定感、自己有用感を高めつつ次の学習意欲を引き出して行く。また成果物に頼りがちな評価判断を見直し、制作途中の評価の工夫も急務である。日を決めて観察を充実させるなどが必要となる。掲示・展示も場所、期間等を吟味し出来立ての作品が常に入れ替わる緻密さも重要になる。さらに鑑賞の分野では、成果物を介した子ども同士のコミュニケーション交換の場面を増やし、共感する態度も涵養させたい。

授業評価集計結果及び分析と改善策

(技術)科

	1年				2年				3年			
	そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
質問1	66	40	13	3	73	42	17	3	102	40	10	4
質問2	27	41	30	12	26	40	43	24	53	60	34	9
質問3	44	38	20	13	31	41	32	27	56	63	23	14
質問4	59	39	12	7	46	47	25	11	58	58	21	18
質問5	32	49	20	12	26	36	29	43	46	54	29	27
質問1(%)	54%	33%	11%	2%	54%	31%	13%	2%	65%	26%	6%	3%
質問2(%)	25%	37%	27%	11%	20%	30%	32%	18%	34%	38%	22%	6%
質問3(%)	38%	33%	17%	11%	24%	31%	24%	21%	36%	40%	15%	9%
質問4(%)	50%	33%	10%	6%	36%	36%	19%	9%	37%	37%	14%	12%
質問5(%)	28%	43%	18%	11%	19%	27%	22%	32%	29%	35%	19%	17%

結果の分析

各学年ともアンケート結果のように授業に前向きに取り組む努力しようとする姿勢がみられる。その中で授業内容を理解できていない、先生は、わかりやすい授業を行っていないと感じる生徒がいることから、知識・理解のみを中心にワークシートで授業を行うだけでは、理解を深めることが難しく、実際に作業することによって内容の理解が深まると考えられる。また、日々の授業の振り返りのまとめとして、他者に伝える場面が増やせればと考える。

改善策の検討

1年間の最後には、学習内容がつながりをもっていたことを実感するような授業を行っていくために実習を多く取り入れながら授業を組み立てられるようにしていきたい。

授業評価集計結果及び分析と改善策

(英語)科

	1年				2年				3年			
	そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
質問1	193	36	16	4	98	28	6	1	203	66	5	7
質問2	163	56	16	10	66	46	15	6	134	99	34	12
質問3	164	67	17	3	70	51	9	3	156	96	16	10
質問4	148	69	13	12	74	43	12	3	144	100	25	11
質問5	161	59	18	5	72	49	5	6	135	106	26	18
質問1(%)	78%	14%	6%	2%	74%	21%	5%	1%	72%	23%	2%	2%
質問2(%)	67%	23%	7%	4%	50%	35%	11%	5%	48%	35%	12%	4%
質問3(%)	65%	27%	7%	1%	53%	38%	7%	2%	56%	35%	6%	4%
質問4(%)	61%	29%	5%	5%	56%	33%	9%	2%	51%	36%	9%	4%
質問5(%)	66%	24%	7%	2%	55%	37%	4%	5%	47%	37%	9%	6%

結果の分析

質問3の結果から、教師が生徒のために普段から授業研究をし分かりやすい授業を工夫していると受けとめていることと、生徒も英語の授業をとても前向きに取り組んでいることが分かる。一方で質問2の結果から、学年が上がるにつれてあまり授業内容を理解できていない生徒の割合が高いことがうかがえる。

改善策の検討

学年が上がるにつれて内容も難しくなるので、理解できる授業を今後も一層目指していきたい。例えばスモールステップとして、文法や単語などの小テストを日ごとの授業から定期的に行い学習力向上につなげていきたい。また、授業のウォーミングアップで帯活動としてのショートトークや授業の中でスピーチを取り入れるなど表現活動にもさらに力を入れていきたい。